

# 勝つ試練

先週でロンドンオリンピックが終わりまりました。日本のメダル数38個は史上最高でした。(東京五輪は29個)参加選手達を見て気がついたことがあります。試合のスタートやゴールのとき、キリスト教文化圏?の選手達は、必ず神に祈ります。一神教、祈りの文化が生活の一部のようです。

日本人は元々、自然の一部である宗教観、仲間として生かされている、共存の社会です。天に祈る、自力の文化「神道」「武士道」は、敗戦と戦後「私欲」の内面で衰退した。個人競技で両手を高く掲げる。集団では抱き合う。

選手達のコメントを聞いて、皆さん勝利は自分だけで勝ち取ったものでないと言っています。頂点に立った勝利者の謙虚さは社会の一員で実に素直、自然で気持ちのよいものです。この若者達の内面から未来と希望が垣間見えてくるのです。考え試していくもの「試練」を超え「愚直」に努力を積み上げた結果が勝利に繋がったものだと思う。

五輪が終わり、狙い澄ましたように隣国から圧力が一気に押し寄せています。隙をみせ、侮られたのです。悠久の歴史上、戦時以外に

日本は今、国境を接する隣国から大きな圧力をかけられています。ロシア参戦時の国家危機でしょう。

圧力に対峙し超えるのではなく利用する。天の理、大きなチャンスが来ているのではないのでしょうか。ロシアにも韓国にも中国にも一挙に主導権をとれる戦

略があるはず。それは戦後支配のアメリカ

カ傘からの独立です?。政財界の支配層は既得権益官僚は天下りを奪われることになり。国防は原発と同じ、アメリカ兵器購入「トモダチ作戦」でありませぬ。

コペルニクスの地動説です。すべて永久に変わらないことにはない。日本国憲法は簡単に変えられない制度にされ、従属国の役割を選択、国民一人ひとりの決意が戦勝国に試されています。

「覚醒」には、これまで見ても目先マスコミを介し気付かれないように、すさま

じい謀略が繰り広げられることでしょう。不退転の決意を自ら決めた先に、主権国家の道が開けると思う。

人間としてあるべき姿「義」天地自然のあるべき姿「理」それぞれが「勝つ試練」、人が試されます。



武士道と恥を忘れた日本人と政治家は、一日も早く消滅すべき人に見えて来るのです。

知識をも、精神をもひたすら磨くことが何より大切である。剣術の真の道というものは、敵と戦ってこれに勝つということである。「兵法の道」というものは、

正しくまっすぐなものである。「兵法の道」というものは、

武蔵が書いた時代と現代は違いますが、心の修行の大切さを今に伝えています。

## 五輪書

女子柔道57キロ級金メダル、金沢市出身の松本薫選手(24歳)は、ものけ姫、アサシンと揶揄され、若き武蔵を見るようにです。気迫は、他の選手を凌駕していました。

勝つて当然と思われる気迫は見習いたいものです。事を成すに当たってすべてに通ずるものと思ひ、宮本武蔵の「五輪書」

「兵法の道には、戦闘の場合でも心の持ち方は平常と変わってならない。濁りのない、広やかな心、高い位置から物事を考え

る。知識をも、精神をもひたすら磨くことが何より大切である。剣術の真の道というものは、敵と戦ってこれに勝つということである。「兵法の道」というものは、

(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計 事務所便り  
2012年8月20日 (月) NO. 265  
地域から明るい未来を作ろう